

日野市
新たな学校づくり・社会教育施設づくり
検討委員会（第2回）資料

日野市教育委員会
令和5年10月13日（金）

- 1) 全体スケジュール・検討委員会の進め方について
- 2) これからの学校建築のあり方について
基調講演 ～学校建築：来し方行く末子どもたちのための学校～
- 3) 学校教育の観点からみた地域開放のあり方について

1) 全体スケジュール・検討委員会の進め方について

検討委員会各回の議題（案） 検討の深まり方により検討テーマが前後することがあります

- 令和5年度末に「中間まとめ」を行う予定。①教室等の建築計画を観点とする検討のとりまとめ②地域における学校のあり方についての方向性の2点を意見交換していくスケジュールで進める。

回	議題	関連する論点
第2回 10月開催	<p><u>これからの学校建築のあり方（基調講演）</u> <u>「地域開放のあり方」について</u> →地域開放（共用化）の結果として学校教育にもたらされるメリットなどについて</p>	<p>論点2) 新しい学習形態に対応した学習環境 論点6) 学校と地域をつなぐ、現実的かつ効果的な複合化・共用化</p>
第3回 12月開催	<p><u>教室等に関する検討について</u> →通常学級、ステップ教室、特別支援学級について <u>学校図書館等に関するワークショップについて</u> →子どもたちとの対話による学校づくりや学校図書館のあり方について <u>避難所や来校者の視点からの学校について</u> →避難所としての体育館や学校施設バリアフリー化について</p>	<p>論点2) 新しい学習形態に対応した学習環境 論点5) 学校教育を深化・充実するための特別教室 論点7) 複合化・共用化も見込んだバリアフリー 論点9) 避難所としての学校施設</p>
第4回 2月開催	<p><u>特別教室に関する検討について</u> →学校図書館等の特別教室に関する検討内容について検証 <u>学校施設における「集い」について</u> →大小様々な規模の集まる場所について、地域の視点から意見交換 <u>共用化のあり方について</u> →共用化の方向性について検討委員会の方向性をまとめ</p>	<p>論点5) 学校教育を深化・充実するための特別教室 論点4) 大小様々な規模の「集い」に対応した環境 論点6) 学校と地域をつなぐ、現実的かつ効果的な複合化・共用化</p>

検討委員会の進め方

「どのような学校をつくるか？」×「どのような建物（校舎）になるのか？」

検討委員会

～利用者・地域の視点で学校のあり方を考える～

1. 教室等諸室の検討

- たとえば次の観点から通常学級を検討
 - 学びの多様化・変化への対応
 - 収納スペースの充足
 - 適応に困難を抱える児童・生徒の居場所
 - 避難経路の確保 など
- 共用化の観点から特別教室の設えの確認

2. 地域における学校のあり方の検討

- 地域コミュニティなどにおける学校施設に関するニーズや空間のあり方検討
 - ・地域開放
 - ・社会教育施設との複合化
 - ・特別教室の共用化
 - ・避難所運営 など
- 地域連携の観点から職員室の検証

→ 委員意見、市民意見 など

ワーキング・グループ

～建築計画の観点から校舎のあり方を考える～

- 教室等の学習環境の空間的検討
 - ・通常学級
 - ・ステップ教室
 - ・特別支援学級 など
- ※ワーキンググループより提案する諸室の機能あり

- 検討委員会でのニーズや空間のあり方を踏まえた特別教室や配置計画の検討
 - ・学校図書館
 - ・体育館
 - ・家庭科室等の特別教室
 - ・セキュリティ対策 など
- ワークプレイスとしての職員室の検討

→ 先進地事例、教員インタビュー など

検討委員会
による検討

空間検討の
フィードバック

2) これからの学校建築のあり方について

基調講演 ～学校建築：来し方行く末子どもたちのための学校～

3) 学校教育の観点からみた地域開放のあり方について

検討委員会（第1回）でのご意見

特別教室における地域での有効活用など、共用化が求められている

- 特別教室の共用化によって、地域コミュニティなどへのメリットがあることが指摘された。
- 共用化の観点をもつことで、学校施設に多様な機能や利用手法、管理コストの効率化など、期待感も示された。
- 共用化の前提として、学校組織ではなく、別の団体による管理運営の手法が不可欠とされる。

■検討委員会（第1回）での意見まとめ（一部抜粋）

特別教室等の共用化

現実的かつ効果的な複合化・共用化を進めたい。

複合化のメリット・デメリットがあるので、誰の夢を語るのかが大事である。

学校図書館を公共図書館のように充実させる。管理を地域に任せてもいいと思う。

プールは維持費がかかるが、活用頻度が低い。地域に開放すればよいのではないかと。

音楽室が地域に開放されれば、楽器類の維持にもつながり、活用も進むと思う。

ひのっち、学童での課題は活動場所の確保である。子ども食堂の活動場所を学校施設に求める声も聞く。

幹線道路沿いに学校をつくり、保健室を地域医療の場として開放する、緊急利用することができるようにすることもあり得るのではないかと。

複合化の前提としてマネジメントの体制も考える必要がある。

バリアフリー対応ながらも車いす利用者に体育館を貸さない例がある。意識の面も検討する必要がある。

多様な主体がかかわって運営されるようになるとよい。

だれもが「お客さん」ではなく、だれもが利益を得られる環境をみんなでつくれるといいと思う。

運営体制

地域開放に関する教職員のご意見

安定的な運営を可能にする体制とともに、学校教育に資するリソースを求めている

メリット

- 地域や他世代との交流や人材の活用など、教育活動の充実を期待する意見がみられ、「社会に開かれた教育課程」につながる複合化が求められていると考えられる。
- たとえば福祉施設であれば、多世代交流による児童・生徒のボランティア意識の高まりや、福祉の専門家がいることでケアが充実することなどがメリットとして挙げられている。
- ただし、バリアフリー化を図るなど、学校施設や設備の充実の必要性が指摘されていた。

デメリット

- 不特定多数の人が学校に出入りすることによる児童・生徒の安全性やプライバシーの確保が挙げられていた。ただし、複数の大人の目があることによる安全確保への期待も見受けられる。また、配慮を要する児童・生徒への対応も懸念されている。
- その対応として、管理区分を明確にし、学校とは異なる管理体制を構築する必要性が指摘されていた。

■ 社会に開かれた教育課程

- H28中教審答申で提起された「社会に開かれた教育課程」とは、「社会の変化に目を向け、教育が普遍的に目指す根幹を堅持しつつ、社会の変化を柔軟に受け止めていく」教育課程であると定義されている。
- また、社会に開かれた教育課程に関する記述のなかには、「学校が社会や世界と接点を持ちつつ、多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことのできる、開かれた環境となることが不可欠である」と書かれており、社会との接点を持つことが求められている。

「社会に開かれた教育課程」を支える制度



コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進が「社会に開かれた教育課程」の実現につながります。

○コミュニティ・スクール(学校運営協議会を置く学校)

学校運営協議会とは、地域住民や保護者等が学校運営に参画し、「熟議」を通して目標やビジョンを共有することによって、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができる、法に基づく仕組み

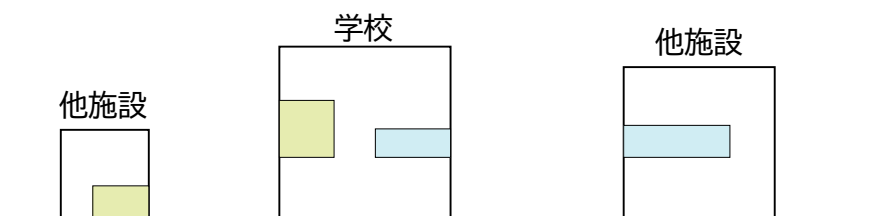
○地域学校協働活動

地域住民の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動。教育委員会は、地域住民と学校との情報共有を行う地域学校協働活動推進員を委嘱できる

学校施設の共有化、複合化とは

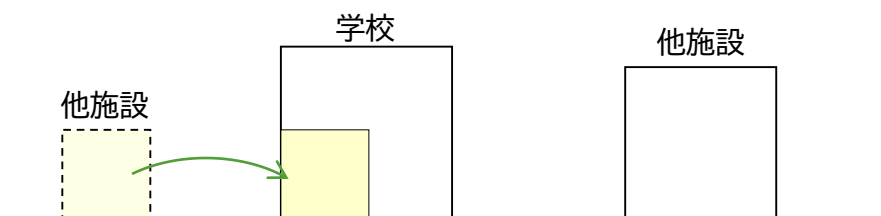
- 共用化とは、学校の教室や施設全般を地域の人たちと共同で利用すること。（同時に地域に開放するしくみが必要）
- 学校以外の公共施設で提供している施設機能を学校の諸室を用いて提供することで、公共施設をあらたに増設することなく、公共施設サービスの密度を高めることができる。
- 共用化と同時に従前の施設機能を有する公共施設を廃止する場合においては、公共施設マネジメントにおける施設の縮減に効果も期待。

■共用化のイメージ



- 学校の特別教室等がもつ機能を地域開放することで類似施設の諸機能をあらたに提供する。
- 従前に施設機能を提供していた他施設は、地域の実情に応じて整理される。

■複合化（統廃合）のイメージ

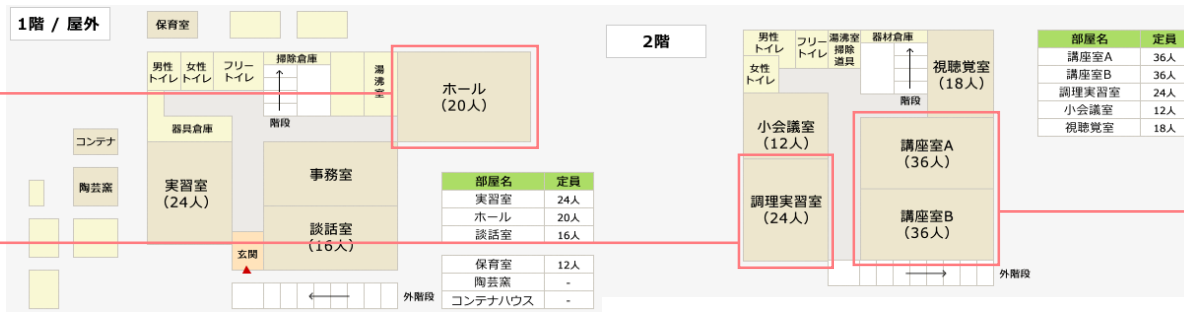


- 学校の施設計画において他施設を取り込み、同一建物または同一敷地内で施設サービスを提供する。
- 施設の統廃合や再編において採用される傾向にある。

■公民館機能を例とした「施設機能の類似」イメージ

発表会や集会等が行われるホールは、学校施設内の多目的スペースなどで同類のサービスが提供できる。

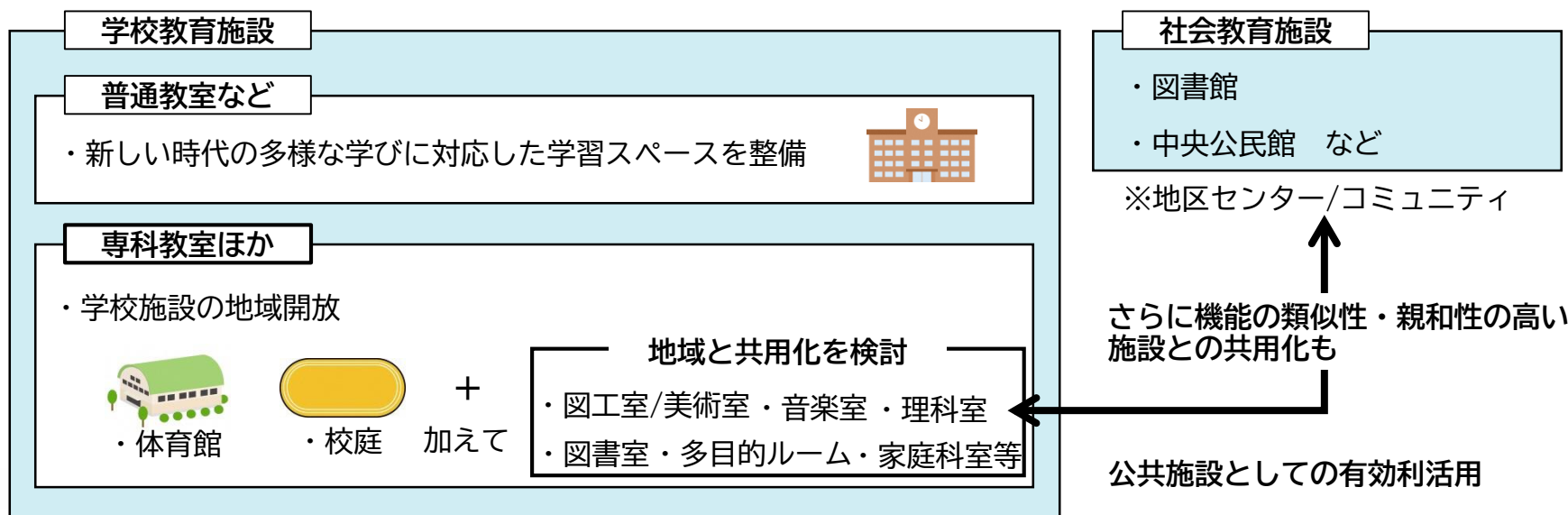
調理実習室は家庭科室において同類のサービスが提供できる。



様々な社会教育活動が行われる講座室A・Bは、音楽室、図工室等の機能や特性を活かして、同類のサービスが提供できる。

※レイアウトは日野市中央公民館

今後の学校施設整備の方向性について (イメージ)

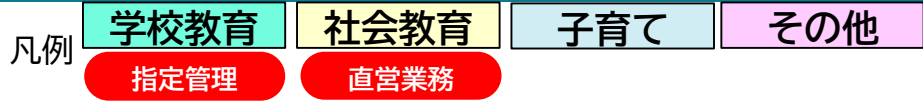


共用化にあたっての検討課題も

- ・安全安心と共用化の両立
- ・市域全体への配置計画検討
- ・管理運営手法の検討 など

3) 学校教育の観点からみた地域開放のあり方について

先進自治体の学校施設共用化・複合化事例

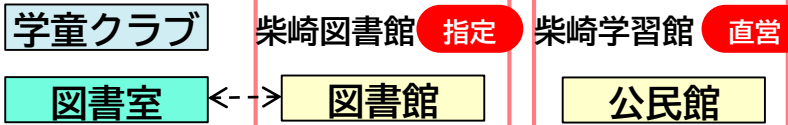


①立川市第一小学校（公共施設再編型）

【概要】

校舎の老朽化と耐震性の課題をきっかけとして、当時周辺に立地していた公共施設との複合化を決定。学校図書室と柴崎図書館を一体的整備とした上で、安全上、パーテーションで区分。

【機能】 地域開放：△特別教室 ○体育館等

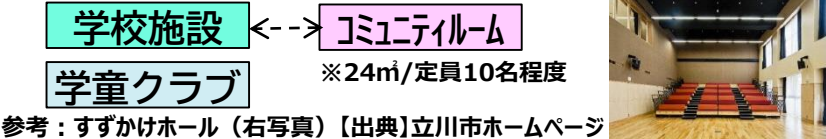


②立川市若葉台小学校（地域開放型）

【概要】

学校統廃合に伴う新校舎整備。学校施設内には、地域団体等が利活用できる「コミュニティホール」とともに、併設して子どもたちが「観るための授業」「発表する場」として「すずかけホール」を設置。移動観覧席が特長。別途、出入口をあらたに設置し、動線にも配慮。

【機能】 地域開放：△特別教室 ○体育館等

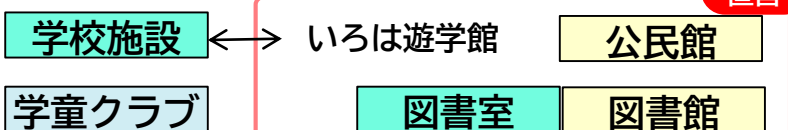


③埼玉県志木小学校（地域交流型）

【概要】

近接する小学校、公民館、図書館の老朽化、耐震化の課題解決策として複合化を実施。学舎融合を主テーマに、児童と地域の人々が直接交流がもてる同一フロア的设计。警備員の常駐と入館証、教員のPHS所持で安全対策を構築。

【機能】 地域開放：○特別教室 ○体育館等

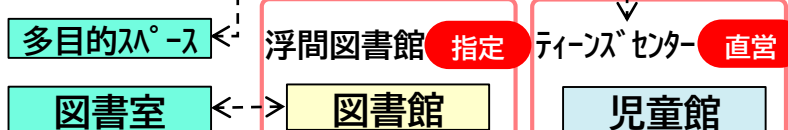


④北区浮間中学校（セキュリティ確保型）

【概要】

学校施設の老朽化対策に加え、地域の活動拠点整備や公共施設の維持管理コストの課題解消とする目的から、近隣に配置された図書館と児童館を複合化、出入口や動線は分離。図書館内に学校図書の一部を配置。学校の特別教室はエリアは、木格子で運用上分離可。

【機能】 地域開放：△特別教室 ○体育館ほか



共用化に関する問い

- 地域コミュニティの利用の観点から共用化するとよいと思う施設（諸室）は何か？
- 共用化がなされた際に、地域住民として学校教育に協力できることは何か？
- また、学校教育から求めたい地域人材や協力の分野とは？
- お互いが安心して使いやすい施設とするためには、どのような観点が必要か？